# 令和7年度　自己チェックシート集計表　　令和　8年　2月

## 実施人数　：　16名

評価点：〇→十分理解している（十分できている）・△→理解している（できている）・×→努力が必要

| 〇子どもの発達 | | 〇 | △ | × |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 子どもは、様々な環境との相互作用により発達していくことを理解している。 | 11 | 5 | 0 |
| 2 | 子どもの発達は、豊かな心情、意欲及び態度を身に付け、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。 | 12 | 3 | 1 |
| 3 | 保育士は、子どもの発達及び生活の連続性に配慮し保育をしなければならないことを理解している。 | 13 | 2 | 1 |
| 4 | 大人との信頼関係を基に、身近な環境を通し成長することが乳幼児期の発達の特性であることを理解している。 | 13 | 3 | 0 |
| 5 | 乳幼児期は身体的条件や生育環境等の違いにより、一人一人の心身の発達の個人差が大きいことを理解している。 | 13 | 3 | 0 |
| 〇保育の内容 | | | | |
| 6 | 「保育の目標」を達成するために「ねらい」があり、「ねらい」をより具体的にしたものが保育の「内容」であることを理解している。 | 11 | 4 | 1 |
| 7 | 養護と教育は、子どもの生活や遊びを通して相互に関係を持ちながら、総合的に展開されることを理解している。 | 12 | 3 | 1 |
| 8 | 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。 | 11 | 5 | 0 |
| 9 | 乳児保育は、5領域を「健やかに伸び伸び育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」の3つの視点から評価することを理解している。 | 8 | 8 | 0 |
| 10 | 幼児期までに育ってほしい10の姿を理解している。 | 4 | 9 | 3 |
| 11 | 保育園は保育の方針や目標に基づき「全体的な計画」を作成し、それを具体化した「指導計画」を作成しなければならないことを理解している。 | 9 | 6 | 1 |
| 12 | 保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを理解している。 | 9 | 7 | 0 |
| 13 | 専門的、客観的な立場からの評価を受け入れたり、自主的に自己評価に取り組んだり、アンケートで利用者側の意見、要望を把握したりし、新たな課題に気付き、保育の質の向上のための課題に対応することができる。 | 3 | 9 | 4 |
| 14 | 職員全体での話し合いがもたれた中で、課題の検討ができる。 | 4 | 10 | 2 |
| 15 | 研修会等への積極的、計画的参加をする中で、新たな課題と情報の収集ができる。 | 5 | 4 | 7 |
| 16 | 登園してくる子どもに、あいさつをしながら、視診・触診をして健康状態を確認している。 | 12 | 4 | 0 |
| 17 | 家庭環境、身体的能力、精神的成長の差から生じる子ども一人一人の違いを把握している。 | 8 | 7 | 1 |
| 18 | 一人一人とコミュニケーションを取り、信頼関係を築いている。 | 8 | 7 | 1 |
| 19 | 自分を表現する力が十分ではない子どもの気持ちをくみとろうと心がけている。 | 8 | 7 | 1 |
| 20 | 登園時に泣く子どもに対して、状況に応じて優しく声をかけたり抱きしめたりしている。 | 10 | 4 | 2 |
| 21 | 家庭を始め地域社会では、いろいろな人が協力して生活していることに気付かせることができる。 | 3 | 8 | 5 |
| 22 | 自己を十分に発揮し、他者と協調して生活することの楽しさを伝えることができる。 | 2 | 11 | 3 |
| 23 | 人の命の尊さを教え、他者をいたわり大切にする気持ちを養う保育ができる。 | 6 | 8 | 2 |
| 24 | 異年齢児の交流ができる保育環境を作り、小さい子への配慮ができ、優しく指導するように援助できる。 | 6 | 9 | 1 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 25 | 動物や植物の世話、収穫等を子どもの発達段階に合った範囲で関わらせ、自らの体験を通して命の大切さを理解できるよう配慮している。 | 6 | 8 | 2 |
| 26 | 大きな自然、小さな自然、あるいは街中の様子などから、まずは保育士自身が季節の変化を感じ取る感受性を大事にしている。 | 8 | 8 | 0 |
| 27 | 草花遊び、泥んこ遊びなど、自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。 | 9 | 7 | 0 |
| 28 | 伝統的な年中行事などを保育に取り入れ、地域の人々の生活を直接感じ取ることができるよう配慮している。 | 4 | 9 | 3 |
| 29 | 気候や気温の変化で服装や、生活の仕方が変わることに気付くよう配慮することができる。 | 11 | 3 | 2 |
| 30 | 最後まで投げ出さずやり遂げたことをほめ、決まりや約束を守ることの大切さと心地よさを体験から感じられるようにし、自信へとつなげるように配慮している。 | 9 | 6 | 1 |
| 31 | 保育士自身が豊かで美しい言葉を使用し、思いを込めて会話するように心がけ、人の話を聞く態度を身に付けさせることができる。 | 3 | 10 | 3 |
| ○健康及び安全 | | | | |
| 32 | 保育園は、子ども一人一人と集団全体の健康及び安全の確保に努めなければならないことを理解している。 | 12 | 4 | 0 |
| 33 | 保育士は、子どもが自らの体や健康に関心を持ち、心身の機能を高めるよう支援していかなければならないことを理解している。 | 11 | 5 | 0 |
| 34 | 子どもの健康状態を定期的、継続的に把握し、保健計画を作成するとともに、不適切な養育の状況があるときは適切に対応することを理解している。 | 9 | 6 | 1 |
| 35 | 施設内外の保健的環境の維持向上に努め、安全対策の共通理解や体制づくりに努めなければならないことを理解している。 | 9 | 6 | 1 |
| 36 | 午睡の状態（呼吸・顔色・嘔吐・汗）を常に観察するとともに、SIDS（乳幼児突然死症候群）のチェックを記録している。 | 12 | 4 | 0 |
| 37 | 睡眠が十分にとれるよう、静かな環境を整えている。 | 13 | 3 | 0 |
| 38 | 保育園は食育計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む力」の育成に向け、その基盤を培わなければならないことを理解している。 | 9 | 6 | 1 |
| 39 | 楽しい雰囲気で食事をするように心がけている。 | 10 | 5 | 1 |
| 40 | あいさつの意味を知らせ、食事の前後にあいさつができるように指導ができる。また、正しい手洗いの方法を教え、清潔にする生活習慣を身に付けさせている。 | 12 | 4 | 0 |
| 41 | アレルゲン除去については、保護者と保育園とで話し合いをし、連絡を密に取り、その対応に相違がないように十分心がけている。 | 12 | 3 | 1 |
| 42 | 緊急通報システムが確立していることを理解し、認識している。 | 11 | 4 | 1 |
| 43 | 非常事態時における職員の役割分担が明確に整備されていることを理解している。 | 11 | 4 | 1 |
| 44 | 子どもの安全を確保し、避難誘導が適切にできる。 | 8 | 7 | 1 |
| 45 | 普通救命講習を受講し、救命処置ができる。 | 5 | 7 | 4 |
| ○子育て支援 | | | | |
| 46 | 保護者との関わりにおいて、一人の人間としての敬意を忘れず保育士と保護者との信頼関係を築けている。 | 10 | 5 | 1 |
| 47 | あいさつ等を通して、相手を受け入れる態度を示している。 | 13 | 3 | 0 |
| 48 | 子どもの送迎時や行事など様々な機会を通し、子どもの様子や保育の意図を説明し、保護者との相互理解を図っている。 | 8 | 6 | 2 |